

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2	対象	1 学年
担当者	原島 淳史						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『最新現代社会 新訂版』 実教出版			・ 『テーマ別資料 クローズアップ現代社会 新版』 第一学習社 ・ ワークシート			70	
学期	月	指導内容	指導目標	時数			
1 学 期	4	・ 現代社会を学ぶにあたって ・ 地球環境問題 ・ 資源・エネルギー問題	・ 地球環境問題や資源・エネルギー問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることや国際的協力が重要であることに気づかせる。	24			
	5	・ 生命科学と情報技術の課題 ・ 自分らしく生きる	・ 生と死のあり方や情報化社会の課題などの観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。 ・ 青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。				
	6	・ 人間としてよく生きる ・ 日本人としての自覚	・ 先哲の思想や宗教、わが国における異文化や外来思想の受容と展開について触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。				
	7	・ 現代国家と民主政治	・ 世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政のあり方について考えさせる。 ・ 法に関する基本的な考え方を身につけさせる。				
2 学 期	9	・ 日本国憲法の基本的性格	・ 日本国憲法の成立過程や基本原理について理解させ、権力分立や法の支配の重要性を基本的人権の保障と関連させ、より理解を深めさせる。	30			
	10	・ 日本の政治機構と政治参加	・ 日本の政治機構や民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。				
	11	・ 現代の経済社会	・ 激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。 ・ 金融や財政の意義や役割を理解させるとともに、金融政策や				
	12	・ 日本経済の特質と国民生活	・ 近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。 ・ 社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。				
3 学 期	1	・ 国際政治の動向	・ 主権や国際政治における諸問題を理解させ、国際社会における日本の役割や世界と共に生きる方法について考察させる。 ・ 国連の成立過程を理解したうえで、国連の課題などについても考えさせる。	16			
	2	・ 国際経済の動向と国際協力	・ 経済のグローバル化が進行していることに注目させるとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。 ・ 経済協力や国際的な援助のあり方について、今までの学習を				
	3	・ 共に生きる社会をめざして ・ 1年間のまとめと振り返り	・ 持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深めさせる。				
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	各単元における知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。基礎学力の定着と情報活用能力を中心に評価する。			・ 定期考査（事実的な知識の習得を問う問題） ・ 定期考査（グラフや表など読み取りを問う問題）			
思考・判断・表現	各単元において、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。情報活用能力とコミュニケーション能力を中心に評価する。			・ 定期考査（表現力が必要な記述式の問題） ・ 作文等課題の提出状況と内容 ・ 授業内での発表内容			
主体的に学習に取り組む態度	年間の授業を通して、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。基礎学力の定着と他者の尊重を中心に評価する。			・ 授業に対する取り組み状況 ・ ファイル提出状況と内容			

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2	対象	HR21～HR26
担当者	西村正徳 ・ 金森也紗						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『世界史A 新訂版』実教出版			『アカデミア世界史』浜島書店			70	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学期	4	・ ガイダンス ・ ヨーロッパの「大航海時代」		・ ポルトガルとスペインを中心に大航海時代がおきた背景と原因を理解させ、それにより世界におきた変容を理解させる。		26	
	5	・ アメリカ大陸の変容 ・ ルネサンスと宗教改革		・ ヨーロッパ人がアメリカ大陸へ到達して以降のアメリカと世界の変容について理解させる。 ・ ルネサンスが大航海時代や宗教改革に影響を与え、それぞれが日本や世界にどのように関係していくかを理解			
	6	・ ヨーロッパ主権国家体制の成立 ・ 17～18世紀のヨーロッパ		・ 現代の世界の国家の基となった主権国家がどのように形成したのかを理解させる。 ・ 主権国家成立以降の17～18世紀の世界の覇権争いがどのように展開されたかを理解させる。			
	7	・ 世界商業の展開		・ イギリスが世界商業の支配権を握るまでの過程と展開を理解させる。			
2 学期	9	・ 農業社会から工業社会へー産業革命 ・ 労働運動と社会主義のはじまり		・ 世界初の産業革命がイギリスから起きるまでの過程を理解させ、何をイギリスにもたらし、世界をどのように変容させたかを理解させる。 ・ 産業革命から資本主義や社会主義が生まれるが、どの		30	
	10	・ アメリカ独立革命 ・ アメリカ合衆国の膨張		・ アメリカ合衆国の成立過程の展開を理解させる。 ・ ごく小さな小国アメリカがどのように膨張し、現在のような大国になったのかを理解させる。			
	11	・ フランス革命 ・ ナポレオン		・ フランス革命が起きた背景と、その後の展開について理解させる。 ・ ナポレオンの登場とナポレオン帝国の成立から没落までの展開を理解させる。			
	12	・ イタリアとドイツの統一 ・ 帝国主義の時代		・ 19世紀後半、初めてイタリアとドイツが統一したが、それぞれの統一過程を理解させる。 ・ 19世紀後半、帝国主義がおこったが、それにより世界がどのように変容していくのかを俯瞰できるようにさせ			
3 学期	1	・ 列強の世界政策 ・ 東南アジアの植民地化		・ 帝国主義のもと、列強の世界分割がどのように繰り返されていったのか理解させる。 ・ 列強の支配がアジアに及び、アジアがどのように変容されていったのかを理解させる。		14	
	2	・ 中国分割の危機と日本 ・ 第一次世界大戦		・ 朝鮮半島をめぐる複雑な情勢の東アジアにヨーロッパ列強が進出し、どのように変容していくのかを理解させる。 ・ 初めての世界戦争の勃発の原因から展開を、各国の視			
	3	・ 第一次世界大戦 ・ 1年間のまとめと振り返り		・ 第一次世界大戦が世界にもたらしたことと、その後の展開について理解させる。 ・ 一年間を振り返り、まとめる。			
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることができる。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着けている。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
思考・判断・表現	近現代の歴史や諸事象の意味や意義、特色などを、年代、推移などの関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり課題を把握し、考察したことを効果的に説明したり、議論できる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚			授業 グループワーク 発表 レポート課題			

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	3	対象	2学年AB選択受講者 (HR21～HR26)
担当者	西村 正徳						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『新詳 世界史B』帝国書院			『アカデミア世界史』浜島書店			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・人類の出現</li> <li>・農耕・牧畜の始まり</li> <li>・文明の誕生</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・考古学史料を基に、人類の発展を考察させる。</li> <li>・農耕が発展し、都市国家が形成されていく流れを理解させる。</li> <li>・オリエントや地中海世界の地理を理解する。</li> </ul>			39
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メソポタミア文明</li> <li>・エジプト文明</li> <li>・セム系諸民族の興隆</li> <li>・中間考査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メソポタミア文明とエジプト文明のそれぞれの文明が誕生した原因と特徴を理解させる。</li> <li>・地中海東岸で貿易が発展した理由を考察させる。</li> </ul>			
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アッシリアによるオリエントの統一</li> <li>・アケメネス朝ペルシアによるオリエントの再統一</li> <li>・エーゲ文明</li> <li>・ポリスの形成</li> <li>・スパルタとアテネ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アッシリアとアケメネス朝ペルシアの世界帝国の違いを考察させる。</li> <li>・クレタ文明、ミケーネ文明の違いを発掘史料等から考察させる。</li> </ul>			
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペルシア戦争</li> <li>・デロス同盟とペロポネソス同盟</li> <li>・アレクサンドロスの遠征</li> <li>・期末考査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルシア戦争の結果、平民が参政権を獲得し、アテネの民主政が確立されていった流れを理解させる。</li> </ul>			
2 学期	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ギリシア文化とヘレニズム文化</li> <li>・共和制ローマ</li> <li>・帝政ローマ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一都市国家のローマは内部矛盾を抱えながらも帝国となり、地中海世界を統一したことを理解させる。</li> <li>・帝政初期に生まれたキリスト教も世界宗教へと成長していったことを理解させる。</li> </ul>			45
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の成立</li> <li>・ローマ帝国の再建と衰退</li> <li>・パルティアとササン朝ペルシア</li> <li>・東アジア世界の風土と人々</li> <li>・中間考査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアではイラン系民族が再登場し、東西交易で大きな役割を果たしたこと、またアフリカにもローマとの功績で反映する王国が生まれたことを理解させる。</li> </ul>			
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・殷と周</li> <li>・春秋戦国時代と秦の統一</li> <li>・漢帝国の外征と内治</li> <li>・中央ユーラシア世界の環境と社会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーラシア大陸東部で発生した古代文明は多様な生態環境のもとで農耕に基づく都市文明から都市国家、領域国家へと発展し、東アジア世界の原型が形づくられ始めた事を理解する。</li> </ul>			
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊牧国家の成立 スキタイと匈奴</li> <li>・突厥帝国とウイグル、チベット</li> <li>・トルコ人の西方移動とユーラシアの変動</li> <li>・三国時代と遊牧民の進出</li> <li>・期末考査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央ユーラシアの遊牧民は、騎射戦術による軍事的優位を生かして草原とオアシスにまたがる遊牧国家を形成し、スキタイと匈奴帝国は定住地域の諸文明に影響を与えたことを理解する。</li> </ul>			
3 学期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北朝時代</li> <li>・隋と唐</li> <li>・五代十国</li> <li>・北宋と南宋</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊牧民の侵入と融合、西方文化の流入により、東アジアの社会は大きく変容したこと、またそれらを集大成した隋唐帝国の制度、文化は近隣の諸地域にも広く滋養されていったことを理解する。</li> </ul>			21
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アジア世界とインダス文明</li> <li>・古典文化の開花とヒンドゥー文化の波及</li> <li>・西アジアの風土とイスラームの成立</li> <li>・イスラーム世界の形成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アジア世界はインダス文明ののち、アーリア人の文化が土着の多様な文化と融合するなかでヒンドゥー教や仏教、サンスクリット文化など独自のインド文明を形成していったことを理解する。</li> </ul>			
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間のまとめと振り返り</li> <li>・学年末考査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間のまとめと振り返り</li> <li>・学年末考査</li> </ul>			
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解できる。諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができ			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みとしての事象の意義、特色などを年代、推移などの関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり課題を把握し、考察したことを効果的に説明したり、議論でき			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みや展開・諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚する			授業 グループワーク 発表 レポート課題			

教科名	地理歴史科	科目名	日本史B	単位数	3	対象	高校2年
担当者	金森 也紗						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
『日本史B』訂正版 実務出版			授業プリント（自作） ICT教材				105
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	【原始・古代】 日本列島の誕生から農耕社会の成立 古墳時代における大和政権		縄文時代と弥生時代の比較をさせることで、歴史的観点を生徒に身につけさせる。 古墳時代の成立や特徴から当時の大和政権がどのように誕生したのか理解させる。			39
	5	【律令国家の形成】 飛鳥の朝廷における律令国家の成立 奈良時代における政治史		律令の意味を理解し、どのように国家体制が成立したのか理解させる			
	6	【律令体制の崩壊と貴族の文化】 都の遷都と平安王朝 平安初期の政治改革		政治史の流れを理解させ、遷都の目的やその後の変化を理解させる。 桓武天皇の政策を理解させ、その目的について考察させる			
	7	【文化史】 古代の文化 天平・白鳳文化 唐風文化と平安仏教		古代からの文化の特徴を、仏像や建築物から考察させる			
2 学 期	9	【平安時代】 藤原氏の政治 国風文化		藤原北家の発展を時系列ごとに展開し、生徒にも自分で時系列で並ばせることで理解を深めさせる 国風文化の特徴を理解させる			45
	10	【貴族の政治から武士の台頭】 貴族の生活 受領と負名 荘園の発展		当時の史料から生活の様子を考察させ、現代との繋がりに気づかせる 土地制度について理解させる			
	11	【武士の台頭と院政】 源氏の進出 荘園制の変化と院政		初期荘園と寄進地形荘園の比較を行い変遷を理解させる 院政がなぜ始まったのかを理解させる			
	12	【武士の政権の誕生】 源平の争いと平氏の政権 院政期の文化史		源氏と平氏の動きを年表や史料から読み取り理解させる 院政期の文化の特徴について考察させる			
3 学 期	1	【鎌倉時代】 幕府が成立するまで 幕府の仕組み		幕府がなぜ誕生したのかを、制度や仕組みを理解させた上で考察させる			21
	2	【武士の社会】 北条氏の台頭と承久の乱 執権政治		幕府の衰退と執権の関係性について理解させる なぜ北条氏が台頭できたのかを考察させる			
	3	【武士の社会】 武士の生活 武士の土地支配		この時代の史料を読み取り、武士の暮らしを想像させ武士という身分の特徴について理解させる			
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	授業の内容で使用された語句について理解しているか 地図や映像などから適切な情報を読み取れているか			定期考査や授業での小テストなどを利用して学習内容の理解がされているか確認する			
思考・判断・表現	授業で扱った内容について「原因・結果・影響」の3観点から考察などを行なっているか			毎回テーマごとの課題に取り組み、授業の内容を自分なりに表現できているか、内容や表現の仕方、考察などで評価する			
主体的に学習に取り組む態度	授業中、積極的に発言を行えているか グループワークなどで協力的に作業や発言が行えているか			授業中の発言、課題やプリントへの取り組みから評価する			

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	単位数	2	対象	HR31~HR36
担当者	青柳秀俊						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『高等学校改訂版 日本史A』 第一学習			プリント			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	ペリー来航と条約調印 開国後の政治と経済 幕末抗争の激化		・ 欧米諸国が開国を要求した意義と幕府支配の変化について理解させる ・ 開国後の日本経済の混乱について理解させる ・ 公武合体と尊王攘夷運動について理解させる			26
	5	倒幕運動 大政奉還と戊辰戦争		・ 討幕派の形成と国際勢力の動きについて理解させる ・ 江戸幕府の終焉について理解させる			
	6	新しい統一国家の形成 新政の始まり 地租改正と殖産興業 文明開化と啓蒙主義 社会生活の変化 人と文化の交流 初期のアジア外交		・ 明治政府の新政策について理解させる ・ 四民平等と徴兵制について理解させる ・ 地租改正と殖産興業政策について理解させる ・ 明治初期の学問の発達について理解させる ・ 文明開化について理解させる ・ 明治初期の外交について理解させる			
	7	反政府運動の動き アジアの動向と自由民権運動 松方財政と近代産業の発達 民権運動の激化		・ 士族の反乱と自由民権運動の始まりについて理解させる ・ 自由民権運動の変化について理解させる			
2 学 期	9	憲法の諸構想と大日本帝国憲法 立憲体制の整備		・ 大日本帝国憲法制定の経過について理解させる ・ 諸法典編纂の経過について理解させる			35
	10	初期議会 条約改正の経過 朝鮮問題 日清戦争と三国干渉		・ 初期議会の様子について理解させる ・ 明治政府の条約改正交渉について理解させる ・ 壬午軍乱、甲申事変について理解させる ・ 日清戦争の経過について理解させる			
	11	資本主義の確立 日清戦争後の政治と社会 近代化の諸思潮 北清事変と日英同盟		・ 日本の産業革命について理解させる ・ 政党の変化と社会問題の発生について理解させる ・ 民権論と国権論について理解させる ・ 日英同盟成立の経過について理解させる			
	12	日露戦争と国民 日露戦争後の世界と日本		・ 日露戦争の経緯について理解させる ・ 日本の植民地経営について理解させる ・ 韓国併合の経過について理解させる			
3 学 期	1	資本主義の発達と社会運動 第一次護憲運動 第一次世界大戦と中国侵略		・ 財閥の形成と社会運動の展開について理解させる ・ 護憲運動と大正政変について理解させる ・ 日本の対独参戦、中国侵略について理解させる			9
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて捉えることができる。資料から情報を収集・選択し、それらを的確に読み取ってまとめる技能を身につけている。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
思考・判断・表現	近現代の日本における諸事象の歴史的意義や経緯などを現代の諸課題と関連づけて考察し、その成果を様々な発表方法で表現することができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
主体的に学習に取り組む態度	近現代の日本における歴史的諸事象について、自ら興味・関心のある主題を設定し、主体的に探究を進めていくことができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			

教科名	公民	科目名	政治・経済	単位数	2	対象	3学年
担当者	原島 淳史						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『政治・経済』 東京書籍			<ul style="list-style-type: none"> <li>『最新図説 政経』浜島書店</li> <li>『要点マスター 政治・経済 演習ノート』東京書籍</li> <li>ワークシート</li> </ul>			70	
学期	月	指導内容	指導目標				時数
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治・経済を学ぶにあたって</li> <li>民主政治の基本原理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主政治の基本原理について、その成り立ちを歴史的な観点から理解させる。</li> <li>議院内閣制と大統領制の特徴を学ぶとともに、イスラム諸国や社会主義体制をとる国々の現状について理解させる。</li> </ul>				30
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の基本原理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の成立過程と基本原則を理解させ、具体的な判例を取り上げ、争点や課題について考察させる。</li> <li>平和主義について理解させるとともに、現実の課題について考察させる。</li> </ul>				
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の政治機構</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦前と戦後の政治機構の違いを理解させた上で、国会、内閣や裁判所の諸課題や改革の動きについて理解させる。</li> <li>地方自治について理解させるとともに、国と地方との関係や課題、住民の政治参加のしくみと意義について考察させる。</li> </ul>				
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代政治の特質と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選挙制度とその特徴を理解させるとともに、日本の選挙をめぐる諸課題について考察させる。</li> <li>世論の役割やマスメディアの現状とあり方について考察させ、国民の政治参加の新たな動きについて考察させる。</li> </ul>				
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の国際政治</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の成立過程や勢力均衡、集団安全保障のしくみについて理解させる。</li> <li>国際連合の成立過程やしくみ、役割と課題について理解させ、こんにちの国際社会における日本の役割について考察させる。</li> </ul>				34
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の資本主義経済</li> <li>現代経済のしくみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の資本主義経済の成立過程を理解させるとともに、資本主義経済や社会主義経済の特徴についても理解させる。</li> <li>グローバル化や情報化が進むこんにちの資本主義経済の特徴について考察させる。</li> </ul>				
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本経済の発展と産業構造の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解させる。</li> <li>構造改革の特徴と影響について理解させ、世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状などについて考察させる。</li> </ul>				
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉社会と日本経済の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害や労働など諸問題と政府による対策について理解させ、解決に向けて何が重要なのかを考察させる。</li> <li>社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について理解させ、日本の社会保障制度の4つの柱について理解させる。</li> </ul>				
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民経済と国際経済</li> <li>1年間のまとめと振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較生産費説を理解させ、また、国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを理解させる。</li> <li>グローバル化の進展と地域的経済統合の動きについて理解させ、国際社会における日本の役割について考察させる。</li> </ul>				6
	2						
	3						
評価の観点			評価の方法				
知識・技能	各単元における知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。基礎学力の定着と情報活用能力を中心に評価する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査（事実的な知識の習得を問う問題）</li> <li>定期考査（グラフや表など読み取りを問う問題）</li> </ul>			
思考・判断・表現	各単元において、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。情報活用能力とコミュニケーション能力を中心に評価する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査（表現力が必要な記述式の問題）</li> <li>レポート等課題の提出状況と内容</li> <li>授業内での発表内容</li> </ul>			
主体的に学習に取り組む態度	年間の授業を通して、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。基礎学力の定着と他者の尊重を中心に評価する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に対する取り組み状況</li> <li>各授業時の学習の記録の内容</li> <li>演習ノート提出状況と内容</li> </ul>			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史B	単位数	2	対象	高校3年
担当者	金森 也紗						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
新詳『世界史B』（帝国書院）			授業プリント（自作） ICT教材			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	【中世ヨーロッパ】 民族移動と王国の形成 ローマ・カトリックの発展		現代のヨーロッパの枠組みが出来上がったことを理解させ、カトリック教会との繋がりについて考察させる。			26
	5	【中世ヨーロッパ】 北方の民族移動と封建社会の成立 教皇権の衰退と十字軍		中世ヨーロッパの封建制について理解させ、教皇権の拡大について十字軍との繋がりを考察させる。			
	6	【中世ヨーロッパ】 都市の発達と封建社会の衰退		十字軍や都市の発達について理解を深め、なぜ封建社会が衰退したのかを考察させる。			
	7	【中世ヨーロッパ】 東ヨーロッパの歴史（ビザンツ帝国）		ビザンツ帝国の成立や仕組みを理解させ、西ヨーロッパ世界との違いについて考察させる。			
2 学 期	9	【唐宋変革】 唐末から宋代への変化 宋代の社会		唐末から宋代の騒乱踏まえ、北宋が成立するまでの過程を理解させる。 宋代の社会について史料を用いて理解させる。			35
	10	【モンゴル帝国と中国】 モンゴル人の動き 中国王朝「元」の成立		モンゴル人の歴史的意義について、文化や東西交流などを踏まえて考察させる。			
	11	【明王朝】 明王朝の政治体制 アジア諸国との繋がり		漢民族の王朝としての政治体制を理解させ、国家体制の特徴を考察させる。			
	12	【清王朝】 清王朝の成立と仕組み アジア諸国との繋がり		女真族の動きを理解させ、王朝成立から発展までの流れを考察させる。 日本との繋がりについて理解させる			
3 学 期	1	【イスラーム世界の成熟】 ティムール帝国 オスマン帝国の成立		イスラーム教がアラビア半島を超えて中央アジアへ拡大した流れを理解させる			9
	2	【イスラーム世界の成熟】 サファヴィー朝の成立 ムガル帝国		イスラーム教がアラビア半島を超えて中央アジアへ拡大した流れを理解させる			
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	授業の内容で使用された語句について理解しているか 地図や映像などから適切な情報を読み取れているか			定期考査や授業での小テストなどを利用して学習内容の理解がされているか確認する			
思考・判断・表現	授業で扱った内容について「原因・結果・影響」の3観点から考察などを行なっているか			毎回テーマごとの課題に取り組み、授業の内容を自分なりに表現できているか、内容や表現の仕方、考察などで評価する			
主体的に学習に取り組む態度	授業中、積極的に発言を行えているか グループワークなどで協力的に作業や発言が行えているか			授業中の発言、課題やプリントへの取り組みから			

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	2	対象	HR31~HR36 (選択)
担当者	青柳秀俊						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『日本史B 新訂版』実教出版			『ビジュアル版 日本史図録』山川出版社			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	ヨーロッパ人の来航 織豊政権		ヨーロッパ人が伝えた鉄砲やキリスト教が日本の歴史や文化に大きな影響を及ぼしたことを理解させる。信長・秀吉の天下統一の過程について理解させる。太閤検地・刀狩によって兵農分離が完成したことを理解させ			26
	5	桃山文化 幕藩体制の成立		戦国大名や豪商の気風を反映して生まれた桃山文化の特色を理解させる。幕藩体制のしくみを理解させる。江戸時代の村や町の様子を理解させる。近世社会の身分・階級について理解させる。			
	6	鎖国 近世の生活と文化		家康の対外政策について理解させる。鎖国完成の経過、「四つの口」の形成について理解させる。幕府支配下の平和な時代となり、生活・文化がどのように変化したか理解させる。			
	7						
2 学 期	9	幕府政治の転換 経済の発展 学芸の発展と元禄文化		文治政治が行われるようになった理由を理解させる。農業生産の向上、交通の整備、商業の発達などにより経済が大きく発展したことを理解させる。近世中期までの文化の特色を理解させる。			35
	10	幕藩体制の動揺と幕政の改革 欧米列強の接近と天保の改革		吉宗が行った享保の改革の内容を理解させる。田沼の政治や寛政の改革のめざしたものを理解させる。19世紀前半の「外圧」と幕府の政策について理解させる。			
	11	江戸中・後期の文化		近世後期の文化の特色を理解させる。国学と洋学が発達した経緯について理解させる。学問や思想の変化や広がりについて理解させる。			
	12	江戸時代の農村		農村社会と地域経済の変化について理解させる。			
3 学 期	1	江戸の町		町人生活の様子や変化について理解させる。			9
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	近世日本における歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけて捉えることができる。資料から情報を収集・選択し、それらを的確に読み取ってまとめる技能を身につけていく。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
思考・判断・表現	近世日本における諸事象の歴史的意義や経緯・特色などを時代背景や現代とのつながりなどに着目して考察し、その成果を様々な発表方法で表現することができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			
主体的に学習に取り組む態度	近世日本における歴史的諸事象について、自ら興味・関心のある主題を設定し、主体的に探究を進めていくことができる。			定期考査 グループワーク 発表 レポート課題			